

写真家 浅田政志が数ヶ月に渡り撮りおろした愛すべき家族の肖像

「宮崎牛家族」写真集

数々の日本一の称号を得てきた宮崎牛を育てる家族の姿を紹介

JA宮崎経済連と写真家 浅田政志がタッグを組んで制作した「宮崎牛家族」写真集が2018年 11月29日（いいにくの日）に蔦屋書店やオンラインストア、JA宮崎経済連グループのミヤチクレストラン各店にて全国発売されます。

宮崎牛は、昨年 全国和牛能力共進会にて3大会連続となる内閣総理大臣賞を受賞し、肉牛部門で日本一の実力を示しました。その結果、国内外で宮崎牛への関心が高まってきており、JA宮崎経済連では、昨年から行う宮崎牛で赤富士を作り日本一を表現した動画プロモーションの次のステップとして、宮崎牛を育てる生産者家族を紹介することで、宮崎牛の理解をさらに深めてもらおうと写真集制作を決定。家族写真で定評のある写真家 浅田政志氏と手を組み、数ヶ月に渡り、宮崎全域12の農家と農業高校1校を取材し、「宮崎牛家族」写真集が完成しました。

写真には、それぞれの家族や高校生の牛との向き合い方、家族のふれあい、そしてどこか懐かしさを感じる家族の姿が描かれています。

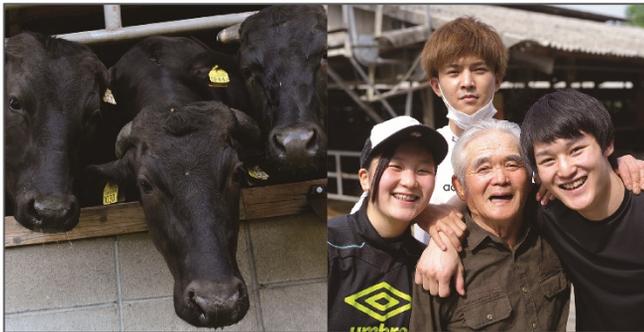
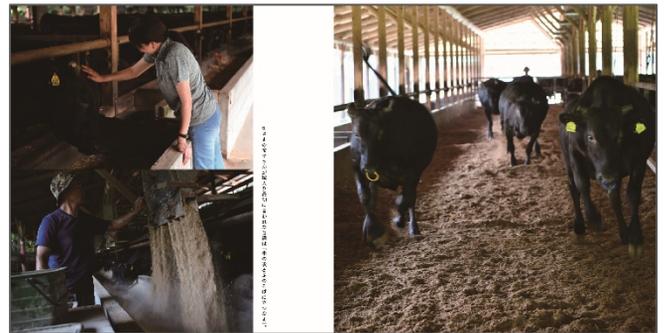


写真集の帯は、宮崎県出身の柔道家 井上康生氏が感想を執筆



「宮崎牛家族」特設サイト：2018年12月公開予定

写真集抜粋データ



宮崎牛赤富士プロモーション



- 宮崎牛赤富士特設サイト

<http://wagyu.miyazaki.jp>

※特設サイト内にプロモーション動画、メイキング動画を掲載



写真家プロフィール

写真家

あさだ まさし

浅田 政志



写真家。1979年三重県生まれ。

日本写真映像専門学校研究科を卒業後、スタジオアシスタントを経て独立。

2009年写真集『浅田家』（2008年赤々舎刊）で第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。

同年、浅田の活動を追ったドキュメンタリー、『家族記念日』（中部日本放送）は、第46回ギャラクシー賞および第5回日本民間放送連盟賞最優秀賞を受賞した。

2010年には初の大型個展、『Tsu Family Land 浅田政志写真展』を三重県立美術館で開催。

パルコギャラリー、森美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館、香港国際写真フェスティバル、道後オンセナート等、国内外での個展やアートプロジェクトにて精力的に作品を発表している。

著書

『NEW LIFE』（赤々舎刊）／『家族新聞』（幻冬舎刊）／『いまバリィさんぽ』（ザメディアジョン）
『八戸レビュー』（美術出版社刊）／『二階堂ふみフォトブック 進級できるかな。』（講談社）
『家族写真は「」である。』（亜紀書房）／『対局 言葉と写真の十番勝負』（パルコ出版）『卒業写真の宿題』（赤々舎）
『アルバムのチカラ』（赤々舎）／『みんなで南三陸』（南三陸町）／『世界のともだち オランダ』（偕成社）
『南予写真NANYO』（日本文芸社）／『通学路』（ブランクトン）
『すごい！鳥取市 100 SUGO！BOOK（鳥取市公式フォトガイドブック）』（玄光社）
『くまモン、どこ行くの？』（飛鳥新社）／『のべおかタパス 食べ歩き写真集』（CUISINE KINGDOM）

出演

中部日本放送『家族記念日』／NHK 高校講座美術『あなたのまわりの誰か（2）～撮る～』
NHK ようこそ先輩『写真をつくる？チカラを撮る！』／NHK 徳島放送局『心かさねて阿波おどり』
NHK 徳島放送局 NHK 四国遍路1200 キャンペーン『御朱印のススメ』／NHK『たすけて！きわめびと』
NHK『デジタルティーンズ』 NHK 神戸『シンサイミライ学校』
NHK『日曜美術館』／フジテレビNONFIX『いまのニッポンを、撮ってください。』
日本テレビ『未来シアター』／BS フジ『ワタシが好きな500の色 ペルー編』／BS ジャパン『夢織人』

主な受賞歴

第34回 木村伊兵衛写真賞：『浅田家』
第46回 ギャラクシー賞および第5回日本民間放送連盟賞最優秀賞：『家族記念日』
第64回 日本観光ポスターコンクール 入賞：『みんなで南三陸』
全国カレンダー展 フジサンケイビジネスアイ賞（銀賞）：気仙沼漁師カレンダー2016
第64回 産経児童出版文化賞大賞受賞：『世界のともだち オランダ』

「宮崎牛」のこと

宮崎牛

「宮崎牛」は、子牛を生産する繁殖農家と、その子牛をお肉になるまで育てる肥育農家が一緒になって育てるブランドです。ブランドが誕生して30年以上。それ以前から、宮崎は、全国各地の銘柄牛の素牛の生産が盛んでした。

現在、「宮崎牛」は登録農家である266戸を中心として、年間約18,000頭が流通しています。

「宮崎牛」を名乗れる条件は、

- ① 黒毛和種である
- ② 宮崎で生まれ宮崎で飼育されている
- ③ 肉質等級が4等級あるいは5等級である
- ④ 県内種雄牛もしくは家畜改良のために指定された種雄牛を父にもつもの。

厳選された条件の中で育った「宮崎牛」だからこそ、「血統」は保証されています。「よく食べ、よく寝る」という基本的な育て方は同じなのですが、もうひとつの「餌」に関しては、各農家の個性の見せ所です。

2007年には、和牛の祭典と言われる第9回全国和牛能力共進会※1（鳥取大会）で日本一を達成した「宮崎牛」でしたが、2010年に発生した口蹄疫により、297,808頭の家畜が尊い命を失い、宮崎県全体の暮らしを大きく揺さぶりました。県外に被害を及ぼさないようにと、家族のように育てた牛たちを、自分たちの手で殺処分するというとても辛い事態が起きました。中には経営が立ち行かなくなり、牛農家をやめる人もいました。それでも「負けるもんか！」と、ブランドとしての「宮崎牛」をここまで復活させることができたのは、たくさんの方々のサポートと農家が牛に対する愛情を絶やさなかったからです。

口蹄疫発生から2年後の2012年には、第10回全国和牛能力共進会（長崎大会）で2連覇となる日本一を達成。2017年には史上初、3大会連続で内閣総理大臣賞※2を受賞しました。

嬉しいことも、辛いことも、いろいろな経験を経たからこそ、一頭一頭愛情を込めて大切に育てる家族がいる。それこそが「宮崎牛」のいちばんの自慢かもしれません。

※1 全国和牛能力共進会

1966年より開催されている、5年に1度、全国から選りすぐりの和牛を集めて行われる品評会。

※2 内閣総理大臣賞

全国和牛能力共進会における最高名誉賞。

1～9区で優等首席を獲得した牛の中から、種牛部門と肉牛部門に、それぞれ一つ与えられる。

< メディアの方のお問い合わせ先 >

『宮崎牛家族』写真集PR事務局 株式会社MRTアド内 担当：黒木

TEL: 0985-22-3333 E-mail: eiiji@mrtad.jp FAX: 0985-24-0621